

工事の順序は第三、第四圖に示すが如く——第三圖は縦斷を示し、工事は右方より左方に進みつゝあり——、第四圖は施工の順序を示す横斷圖にして最初左端の圖の如く、側壁部に於て幅約一米のトレンチを路面より掘り下げ、混凝土工を爲し、一方隧道式に坑道の上半部を掘進し側壁間にエビームを架し假支へを爲し（第三圖左端、第四圖中央の狀況）次に中央の鐵筋柱及桁の施工を爲すが、混凝土は路面の溝より填充する（第四圖右端）。

### ●奈良東大寺の道路問題

奈良東大寺の坊さんが、境内地を國道に取られるので法衣の袖を卷りあげて反對してゐることを本誌八月號で批評したのに對して、徳島市の富田浦町に住む前田正一と言ふ人から大要左の様な意見がきた。

自分は土佐街道沿の徳島の南に在る、金刀比羅神社の岩の鼻と言ふ岩を切崩して道をつけ石燈籠を移轉する計畫に反對した者であるが、國道改良の爲に……年か保存された東大寺境内を取ることば、幼稚な日本工學の罪であつて、日本の道路の改良は結局日本人の改良を意味するものだ、改良と言ふことには保存と言ふ精神を忘れてはならぬ、で奈良の町は二千年で大阪の市のやうには爲らぬから矢張り奈良は奈良的に保存したいものだ、之を保存することは日本人の改良を教へて呉れることに爲る、日本の工學者ももつと大局から遠觀してことを決して貰ひたい、東大寺と轉害門との間を國道が抜け馳けしたと言つて譽めて呉れる人もなからう、高が知れた坊主を虐めなくつて奈良の名勝古蹟を保存して呉れと言ふのだ。

成る程奈良の名勝舊蹟を保存することは、前田さんの言ふやうに日本人改良の資料と爲るであらう、で私も保存論に反對するものでは無い、出来ることなら保存したい、併し東大寺と轉害門との間には幾多の道路が今も尙存置かれてゐる、そこに一路を造ることと奈良の交通が頻繁に爲つて交通者が日夜悩んでゐることとを天秤にかけての話だ、詰り比較程度の問題だ、此標準を忘れて保存を主張する坊主が間違つてゐると言のた、私の所論に賛成して貰ひたい。